

第3回 米川フォーラム ～ 過去から未来へ 米川とともに生きる ～

キセキの川・米川

片野さんのお宅は、道に面して玄関があつて、

そして玄関の奥に米川が流れていたのです。

米川が家の敷地の中を流れているのです。

つまり、母屋があつて向うの木戸側の真ん中に

米川が流れているのです。

「ここぞな、わしは子どもの時、窓からビワマスをつかんだんや」

「ナマズを石の間でつかみ、ゴリが黒い帯の数珠に

なつて上がつてゐるのをみてきたんや。

米川のこっち側も向う側も自分の家や。

自分の家の中を川が流れていて、

その川が汚れるのは納得できんやろう。

川が汚れるのは家が汚れるようなもんなんや」

というのが片野さんの口ぐせでした。

※片野さん…片野喜代士さん。

1970年代頃から長年にわたつて中心街を流れる米川の清掃活動のリーダーとして活躍。

(引用「生活環境主義でいこう 嘉田由紀子 語り

／古谷桂信 構成」岩波ジュニア新書 (2008.5 刊行))

参加費

無料

川耕と産卵床づくり(R6.11 虎高新聞部の皆さんと)

目的

かつて、米川には、多様で豊かな自然とともに、それに寄り添った美しい暮らしがありました。そんな米川で、子どもたちが生き生きと遊ぶ風景をつくりたい。

5年前から取り組んでいる「米川・かわまちづくり」です。

望ましい米川の姿を次世代に取り戻し、環境との共生という大きな課題に布石を打つため、今回は、ビワマスが遡上できる川づくりを話し合います。

日時

令和7年2月2日(日) 午後1:30～4:00

場所

長浜まちづくりセンター・多目的ホール(2F)

定員

50名(申込必要)

申し込みはこちら



プレゼンテーション

1 米川へのこれまでの地域の関わりについて

ながはまアメニティ会議

松居 弘次氏

2 米川フィールドワークの学びから、提案していきたいこと

滋賀県立大学環境科学部准教授 平岡 俊一氏

パネルディスカッション

「米川と、ビワマスをはじめとした自然再生の可能性について」

コーディネーター 滋賀県立大学環境科学部准教授

平岡 俊一氏

パネラー 滋賀県立琵琶湖博物館特別研究員

藤岡 康弘氏

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター専門研究員 佐藤 祐一氏

NPO法人近江淡水生物研究所代表

向田 直人氏

ワークショップ (ハマコン)

「毎年、米川を遡上するビワマスの姿をみたい!!」

コーディネーター 長浜市秘書広報課長 安藤 和人氏



ビワマスの稚魚(R6.4 長浜駅前)

申込み
問い合わせ先

長浜まちなか地域づくり連合会

〒526-0037 長浜市高田町 12-34 長浜まちづくりセンター内

TEL: 64-2753 Mail: nagahama-cia@ntd-rengoukai.com

